



つちうら読書案内

この夏読みたい、土浦を舞台にした青春ファンタジーSF 高野史緒『グラフ・ツェッペリン あの夏の飛行船』

(早川書房、2023年)

著者は土浦市出身の作家、高野史緒さん。全編をとおり、物語は土浦市内で展開します。実在する施設やお店、町名などがいくつも登場し、土浦を知る人であれば、作中の情景をありありと思い浮かべることができるはずです。

本作は、17歳の少年・少女の視点から描かれており、平易な文体で親しみやすく読める一方、設定は「並行世界もの」の本格SFです。夏紀という少女が生きる世界では、コンピュータ技術は大きく遅れていますが、宇宙技術は火星開発にまで及び、東西冷戦の陰が残るレトロフューチャーな世界観。土浦の街並みも懐かしい雰囲気、駅前に百貨店があったり、旧町名が使われていたり……平成初期の土浦を知っている方はノスタルジックな気分になれるはずです。一方、登志夫という少年が生きる世界では量子コンピュータが実用化されているなど、私たちの世界より少し先に行く技術も見られますが、土浦の風景はほぼ現実どおり。ただ、「土浦光量子コンピュータ・センター」の立地には意表を突かれることでしょう。

二つの世界を交差させ、爽やかで切ないボーイ・ミーツ・ガールの物語を動かす大きな鍵となるのが、「飛行船グラフ・ツェッペリン号の飛来」です。史実では1929年の出来事ですが、作中では「時空を超えて土浦上空に現れるツェッペリン号」という幻想的なモチーフが繰り返し描写されます。特にクライマックスの、極彩色のイメージの奔流の中をツェッペリン号が悠然と飛行するシーンは、鮮烈な印象を残します。

私たちの世界とは少し違う「土浦」で繰り広げられる、ひと夏の青春SFストーリー。本を閉じた後、ふと夏空を見上げたくなる、そんな一冊です。



「幼い頃、亀城公園二の丸跡の上空にツェッペリン号を見た」という共通の記憶が、二人の世界を結び付けます。

応援ありがとうございます ふるさと土浦応援寄付

令和7年度も、土浦を「ふるさと」と思う多くの方から応援いただきました。ありがとうございました。寄付の内容と活用事業をお知らせします。

☎ 問 移住・定住戦略室 (☎ 内線2518)



ふるさと土浦応援寄付の内容	件数	金額	主な活用事業
子どもが夢と希望を持ち、生き生きと育つまちづくり	4万1283件	7億2955万6900円	小学校長寿命化改良事業 など
安心な市民生活を支える災害に強いまちづくり	6877件	1億1103万7700円	橋梁耐震対策・長寿命化修繕事業 など
暮らしやすさ、働きやすさが人を呼ぶまちづくり	7114件	1億1288万1800円	荒川沖木田余線整備事業 など
未来につなげる「地域の宝」を生かしたまちづくり	3562件	6175万5100円	水郷筑波サイクリング環境整備事業 など
迅速な災害対応、安心安全な消防活動を実現したい(使い道指定)	105件	217万円	災害対応特殊救急自動車更新事業
「土浦薪能」を土浦市の文化遺産として継承したい(使い道指定)	63件	147万8300円	土浦薪能関連事業
指定しない	7万694件	10億1728万7600円	各プロジェクトから事業を選択して活用
合計	12万9698件	20億3616万7400円	